を禁ぜられたり、天正の頃より別て流行し、寶永正德までの際は、賭碁のこと聞えず、享保の末年より其の端を開きし樣に見えたり、寶曆明和に至りて、賭碁渡世のもの間にきくことあり、備中に源五郎といふもの出て、諸州を遊歷し、賭碁に凡そ三千兩の金子を勝得たりといふ、其金にて田畑等を買、豐富に家をおこせしものたゞ一人なり、唯其の後尾張の德助、阿波の米藏等も、三千兩ばかり勝ちたりといふ、然れどもみな〳〵酒食遊女博奕等にのみ遣ひ果し、終りを能くするものを聞かず、圓次政五郎、周平三之助等、明和安永の頃、各賭碁をもつて業とせしものどもなり、

〔雍州府志七土產〕碁盤○中略凡能碁者、其會長稱碁所、代々仕公方家受祿、

〔明良帶錄世職〕碁　將棊之者

世職なれ共、輕きものなり、是も御吉例を以、每年碁將棊手組被仰付之、

〔寶永三年武鑑〕御碁所

京極通寂光寺內江戸芝金杉世石五人扶持　本因坊　三十石鐵砲町　林門入　三十石本兩かへ町　安井仙角　三十石井上因碩　三十石井上因節

〔慶應三年武鑑〕御碁所

五十石十人フチ本所相生町二丁メ　本因坊秀和　五十石十人フチ芝新せんざ　井上因碩　三十石芝金杉片町　林門入

十人フチ同居跡目　本因坊弟子　秀策　安井仙知弟子　坂口仙得　十人フチお玉が池　伊藤松和

〔温知柳營秘鑑三〕京都連歌師、碁打、將棊指、町人、知行御扶持方御切米被下置候者、○中略

米三拾石、外拾貳人扶持、　安井算哲　米貳拾石、外五人扶持、　安井算智

拾人扶持同斷　因碩　米貳拾石同斷　安井智哲

〔本因坊家略紀下〕本因坊筭砂出生京都

天正の頃、京都に本因坊と云僧有、碁將棊共に能す、其頃本因坊に及ぶ碁將棊なし、信長及聞之、呼